指定校における実践　藤岡市立小野中学校

取扱注意

資料１

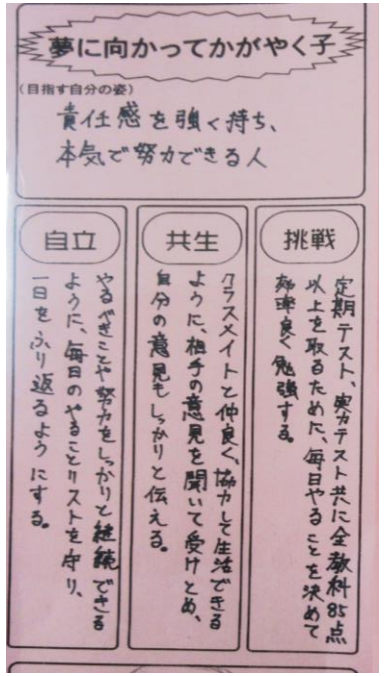
主な取組（何を行ったか）

- 児童生徒に身に付けさせたい資質能力（認知能力・非認知能力）を考える小・中合同の教員研修
- 三つのキーを意識した探究的な授業づくり
- 学校教育目標を意識した個人目標づくり

主体的に学習に取り組む姿を意識化するための掲示物

肖像権の都合により
写真は非表示

三つのキーを意識し、主体的・対話的に探究する授業



学校教育目標を意識し、目指す自分の姿を具体化した個人目標

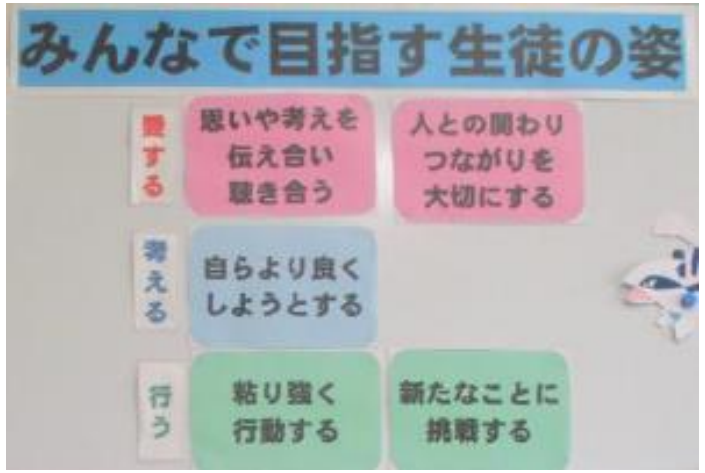
取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- 授業の中で自分の考えをもち、意欲的に学びを進めようとする生徒が増えた。
- 教員が非認知能力育成の視点をもち、主体的に取り組めるようにするため、生徒に活動を任せようとする場面が増えた。
- 授業での非認知能力育成の取組が、教員による生徒の見取りやフィードバック等に活かされてきた。

指定校における実践　下仁田町立下仁田中学校

主な取組（何を行ったか）

- 生徒の声を反映した「目指す生徒の姿」（行動指標）の作成
- 「目指す生徒の姿」を意識した生徒主体の生徒会・委員会活動
- 生徒の良さを教員間で共有するためのエピソードの蓄積



教室に掲示された「目指す生徒の姿」

肖像権の都合により
写真は非表示

思いや考えを伝え合い、聴き合う生徒主体の委員会活動

愛する			考える
①思いや考えを伝え合い、聴き合う生徒			自らより良くしようと考える生徒
②人とのかかわりやつながりを大切にする生徒			
場面	いつ	記入者	場面
②体育館でバスケットボール部が練習中しているときに、体育館部活以外の顧問の先生が顔をだしたときに、気付いて自分たちから挨拶を大きな声でよいタイミングで行っていた。	12/5	[redacted]	小中合同のいじめ防止こども会議の自己紹介（班）の場面で、「名前＋マイブーム」を話題にする流れであったが、決められた話題以外を入れながら、小学生が話し合いをしやすいように進行を工夫していた
②アンサンブルの練習を行うとき、部長が自分の担当パート以外の譜読みを行い、そのパートを担当する友人に声をかけて一緒に練習することができていた。	１０月～１１月	[redacted]	部活動の練習メニューを生徒中心で決め、さらに必要だと思う部分を顧問が指示している。
②授業のとき、わからない問題を「教えて」と友達に頼んだら、気持ちよく「いいよ」と言って教えてくれる生徒がいた。	１２月６日	[redacted]	数学でできないところがあるから、個人的にプリントが欲しいと要望し自ら取り組む生徒がいた。

生徒の良さを記したエピソードの一覧

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- 生徒と教員が一緒に「目指す生徒の姿」を作成したことで、生徒も教員も様々な教育活動に対して、「目指す生徒の姿」を意識し、目的を共有しながら取り組むようになった。
- 生徒会や委員会活動等で、学校全体のことを考え、皆のために取り組もうとする生徒が増えた。
- エピソードの共有により、生徒の良さに関する教員間の会話が増えた。

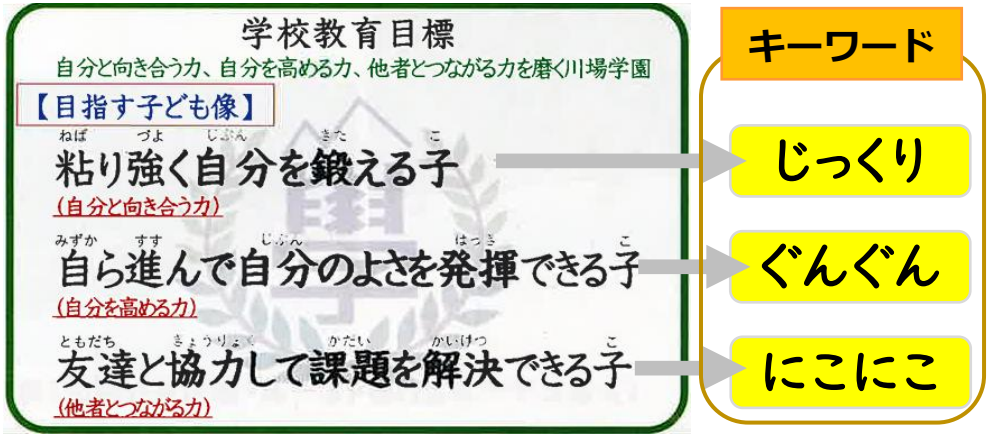
指定校における実践　川場村立川場学園　※義務教育学校

主な取組（何を行ったか）

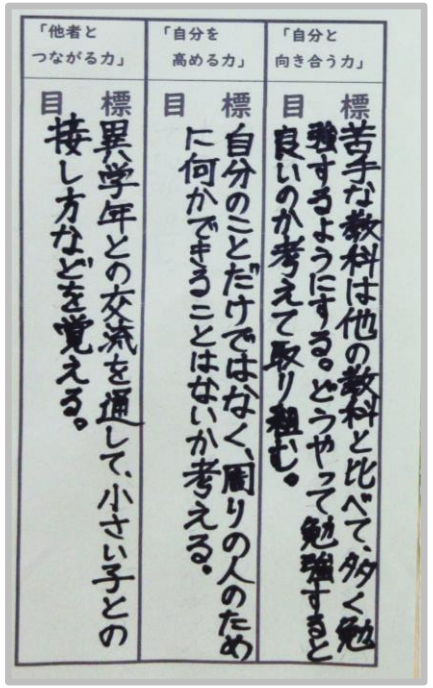
- 責任感、自己肯定感等を育む１年生から９年生までの縦割り活動
- １年生から４年生にも分かる学校教育目標のキーワード化
- 学校教育目標を意識した個人目標づくり

肖像権の都合により
写真は非表示

下級生の手本となる意識が高まる縦割り活動



学校教育目標のキーワード化



５年生以上は学校教育目標に沿った個人目標を作成

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- 相手の立場や状況に合わせた言動を意識する上級生と、その姿に憧れを抱く下級生が増えた。
- 学校教育目標のキーワード化により、自分の非認知能力を捉えた個人目標をたてることができる児童生徒が増えた。また、教員が学校教育目標を意識した見取りの視点をもつことで、児童生徒一人一人の姿を、より丁寧に見取ることができるようになった。

指定校における実践　玉村町立南中学校

主な取組（何を行ったか）

- 生徒個人と様々な教育活動をつなぐハブとしての機能をもった全校学活
- 生徒が自律する力を育成する複数担任制
- 有志の生徒と教員が「理想の〇〇」について本音で語り合う課外活動（南中Channel）

肖像権の都合により
写真は非表示

全校生徒の当事者意識を高める全校学活

肖像権の都合により
写真は非表示

生徒の自律を促す複数担任制

肖像権の都合により
写真は非表示

生徒と教員が本音で語り合う南中Channel

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- 教員からの指示や働きかけを待つのではなく、自分たちが学校や学級を創っていく当事者であるという意識が高まった。
- 相手の立場を尊重し、対話を通して納得解を目指そうとする生徒が増えた。
- 非認知能力の育成を意識した取組を行ったことで生徒に変化が見られ、教員の主体性も高まった。

指定校における実践　群馬県立前橋南高等学校

主な取組（何を行ったか）

- 生徒会や委員会等の生徒発案による企画・運営のイベント
- 非認知能力育成の意識啓発や共通理解醸成のためのジャーナル発行
- 生徒アンケートを踏まえた主体性を高める１２項目

肖像権の都合により
写真は非表示

生徒発案のアイスクリーム自動販売機導入

非認知能力育成に関するジャーナル

生徒の主体性を高める12項目

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- 「自ら考え、判断し、行動する」という目指すべき生徒の姿が学校全体で共有されたことで、生徒は「教わる」から「学ぶ」に、教員は「教える」から「考えさせる」へ意識の変化が生まれた。
- 生徒発案の企画を実現するために、生徒が様々な壁にぶつかりながらも調整、合意形成を図り、具現化する難しさを乗り越えて得た成功体験は生徒の自信につながった。

指定校における実践　群馬県立高崎女子高等学校

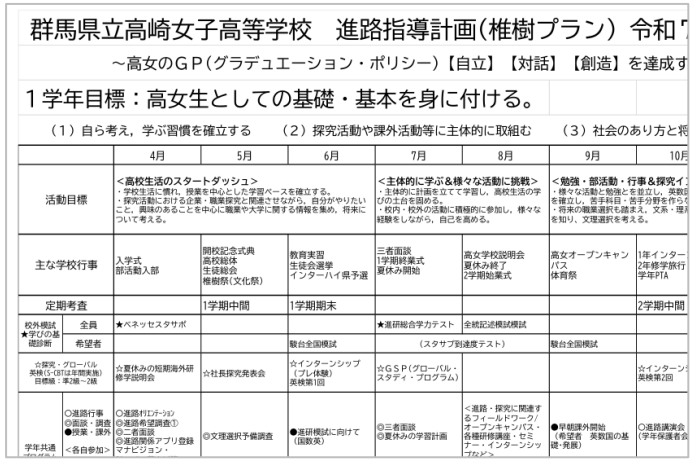
主な取組（何を行ったか）

- グラデュエーションポリシーを実現する９つの具体的取組の設定
- 生徒に時間を返し、自由に学びを組み立てられる学習時間（Ａタイム）
- 生徒が見通しをもって主体的に進路実現に向かう進路指導体制の確立

９つの具体的取組

肖像権の都合により
写真は非表示

Ａタイムの進路企画に参加した生徒


群馬県立高崎女子高等学校　進路指導計画（椎樹プラン）令和

～高女のＧＰ（グラデュエーション・ポリシー）【自立】【対話】【創造】を達成す

１学年目標：高女生としての基礎・基本を身に付ける。

（１）自ら考え，学ぶ習慣を確立する　（２）探究活動や課外活動等に主体的に取組む　（３）社会のあり方と将

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
活動目標		＜高校生活のスタートダッシュ＞ ・学校生活に慣れ、授業を中心とした学習ペースを確立する。 ・探究活動における企業・職業探究と関連させながら、自分がやりたいこと、興味のあることを中心に職業や大学に関する情報を集め、将来について考える。			＜主体的に学ぶ＆様々な活動に挑戦＞ ・主体的に計画を立てて学習し、高校生活の学びの土台を固める。 ・校内・校外の活動に積極的に参加し、様々な経験をしながら、自己を高める。		＜勉強・部活動・行事＆探究イ ・様々な活動と勉強とを並立し、英数国を確立し、苦手科目・苦手分野を作らな ・将来の職業選択も踏まえ、文系・理系を知り、文理選択を考える。	
主な学校行事		入学式 部活動入部	開校記念式典 高校総体 生徒総会 椎樹祭（文化祭）	教育実習 生徒会選挙 インターハイ県予選	三者面談 1学期終業式 夏休み開始	高女学校説明会 夏休み終了 2学期始業式	高女オープンキャンパス 体育祭	1年インター 2年修学旅行 学年PTA
定期考査			1学期中間	1学期期末				2学期中間
校外模試 ★学びの基礎診断	全員	★ベネッセスタサポ			★進研総合学力テスト	全統記述模試模試		
	希望者			駿台全国模試	（スタサプ到達度テスト）		駿台全国模試	
☆探究・グローバル 英検（5-GTは年間実施） 目標値：準2級～2級		☆夏休みの短期海外研修学説明会	☆社長探究発表会	☆インターンシップ（プレ体験） 英検第1回	☆ＧＳＰ（グローバル・スタディ・プログラム）			☆インターン 英検第2回
学年共通	○進路行事 ◎面談・調査 ●授業・課外 ＜各自参加＞	○進路ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ ◎進路希望調査① ○二者面談 ◎進路関係アプリ登録 マナビジョン・	◎文理選択予備調査	●進研模試に向けて（国数英）	◎三者面談 ◎夏休みの学習計画	＜進路・探究に関するフィールドワーク／オープンキャンパス・各種研修講座・セミナー・インターンシップなど＞	●早朝課外開始 （希望者　英数国の基礎・発展）	○進路講演会 （学年保護者会

進路指導計画（椎樹プラン）

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- グラデュエーションポリシーの実現を目指す中で、伝統的な生徒自治の価値を再認識できた。
- 生徒が主体性を発揮できる取組を通して、生徒と教員が同じ目線で目標に向かい、生徒は自らの学びを調整し、教員は「指導」から「支援」へと役割を転換する姿が増えた。
- 認知能力と非認知能力をともに伸ばす授業改善により、進路実現と主体性の育成を両立させた。

指定校における実践　群馬県立伊勢崎高等学校

主な取組（何を行ったか）

- 「学校を越えて社会で生きる力」を育てる探究学習
- 生徒の主体的活動と教員研修を同時に行う学校行事（Agency Dayとドーナツ会議）
- 生徒と教員にとって心地よく過ごせる学校環境への改善

学校主催の探究活動イベント

肖像権の都合により
写真は非表示

時間的余裕のある中で教員の
目線合わせを行うドーナツ会議

落ち着いて読書が楽しめる
コモンスペース

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- これまで受け身な生徒が多かったが、徐々に積極的に行動を起こす姿が見られるようになってきた。希望者による探究プログラムへの参加を希望し、課題解決に向けて模索する生徒が増えた。
- フラットな教員研修は、それぞれが抱える思いや課題感を共有し、具体的で実行可能な改善案を全ての教員で生み出す機会となった。

指定校における実践　群馬県立新田暁高等学校

主な取組（何を行ったか）

- 自己肯定感を育む卒業時表彰制度の見直し
- 全ての教員で生徒理解に励む組織体制（ちょこっと面談）
- 地域と連携し、社会のウェルビーイングに向けた貢献

卒業時に多くの生徒が受賞する校内表彰制度

肖像権の都合により
写真は非表示

ちょこっと面談の様子

地域連携の例（夏祭りポスター作成）

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

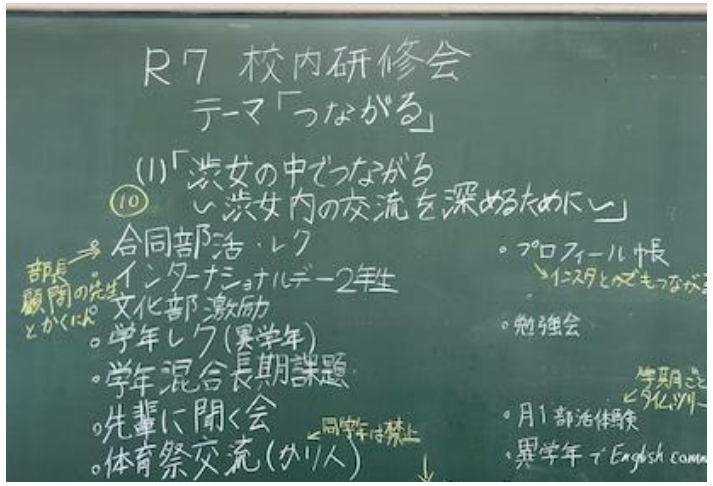
- 日常の挑戦を評価する仕組みの導入により、生徒は自分の成長を実感することができた。また、失敗を許容する環境が、生徒の「やってみよう」というを意欲を引き出している。
- あいさつ運動の企画やルールづくりの提案など、生徒会を中心とした主体的な活動が活発になった。取組に対する感謝や労いを受けることで、生徒の自己肯定感の向上につながった。

指定校における実践　群馬県立渋川女子高等学校

主な取組（何を行ったか）

- キーワード「しなやか」を用いて育てたい生徒の姿を明確化
- 生徒が自分たちの活動について話し合う生徒校内研修会
- 行事を振り返り互いの感謝を伝える「ありがとうの木」

キーワードのクラス掲示



生徒校内研修会の板書記録

著作権の都合により
写真は非表示

「ありがとうの木」

取組を振り返って（どのような気付きや変容があったか）

- 「しなやか」を軸に、学校・家庭・地域・同窓生が連携して生徒を支える学校文化が広がった。
- 学校運営に参画しようとする意識が高まり、リーダーシップを発揮する生徒が増えた。
- 生徒会活動や学校行事等で得た主体性を育む視点を授業づくりに取り入れ、「教え込み」を脱し、対話を重視した授業改善を進めた。

実践を通して見えてきた児童生徒・教員の変容

1　自己肯定感と挑戦する意欲

児童生徒の変容

日常の主体的な言動が奨励され、失敗を恐れるよりも挑戦したことで得られた成長を実感できるようになり、「やってみよう」という前向きな気持ちが高まってきた。

教員の変容

児童生徒が安心して発言・挑戦できる学級、学校の心理的安全性づくりを重視するようになった。失敗を否定せず、挑戦の過程を価値付ける声掛けが増えた。

2　目標の具体化と自己理解の深化

児童生徒の変容

学校教育目標や学校設定の最上位目標を理解し、自分の行動や学びを目的と結び付けて捉えられるようになった。また、自分の現状を客観的に振り返り、次の目標を具体的に設定する児童生徒が増えた。

教員の変容

学校教育目標や最上位目標について学校全体で共通認識をもち、日常の教育活動と結び付けるようになり、児童生徒が「自分事」として捉えられるようにするために、振り返りや自己評価の場面を計画的に設定するようになった。

3　「教わる」から「学ぶ」への意識の変化

児童生徒の変容

教員の指示を待つのではなく、自ら考えて動こうとする姿勢が増えた。自分たちが学級や学校を創り上げる当事者であるという意識が多くの児童生徒に芽生えてきた。

教員の変容

指示・管理型の指導から、児童生徒の主体性を引き出す支援型の指導へと意識の転換が見られた。「任せる」ことへの不安を乗り越え、児童生徒の自己決定や試行錯誤を見守りながら支える姿勢が広がった。

4　対話を通じた合意形成

児童生徒の変容

相手の立場や考えを尊重しながら、対話によって互いの納得解を粘り強く模索する姿が見られるようになった。また、自分の意見が学校づくりに反映される経験を通して、参画の意識が高まった。

教員の変容

生徒と教員、教員同士がフラットな立場で課題感や思いを共有できる機会が増えた。これにより、生徒の声や現場の声を踏まえた実行可能な改善案が具体化されるようになった。

5　異年齢交流による責任感と憧れによるロールモデルの連鎖

児童生徒の変容

上級生が自らの言動に責任感を持ち、リーダーシップを発揮する機会が増えることで、それを見た下級生が身近な目標（ロールモデル）のイメージを描きやすくなり、個と集団の良好な成長サイクルが生まれた。

教員の変容

異年齢による活動を単なる交流ではなく、育成したい資質・能力を意図した教育活動位置付けるようになった。「身近な目標」を意識できるように、児童生徒の行動や努力を積極的に価値付ける場面が増えた。